

ID No.	143
研究課題名	乳がん幹細胞の安定化と可塑性鍵分子を標的とするがん根治療法の開発
研究代表者	後藤 典子 (金沢大学がん進展制御研究所・教授)
研究組織 受入教員 研究分担者	東條 有伸 (東京大学医科学研究所・教授)
研究報告書	
<p>本研究では、乳がん幹細胞の安定化や可塑性に関わる新規分子標的候補の創薬への実用化を加速させることを大きな目標とし、機能解析を行って、分子標的としての評価を行う。</p> <p>東條有伸教授との共同研究により、乳がん幹細胞の機能評価系として、臨床検体の初代培養細胞を用いたスフィア培養系とpatient derived xenograft (PDX)モデルを構築しており、それを活用し、以下の成果を得た。</p> <ol style="list-style-type: none"> 候補になっているIGF2及びMICAL3の機能解析を行った。乳がん細胞株や臨床検体由来培養細胞を用いたスフィア培養、PDXモデルを用いた結果、IGF2及びMICAL3は、がん幹細胞を標的とする新規の分子標的としてのproof-of-conceptが得られた。 乳がん臨床検体由来培養細胞を用いた次世代シーケンサーを用いた解析により、がん幹細胞を標的とする新規分子標的候補の探索を行った。9検体の解析を行い、新規の融合遺伝子が見いだされている。 	